

## 10-1 九州地方とその周辺の地震活動 (2006 年 5 月～10 月)

### Seismic Activity in and around Kyushu District (May - October 2006)

気象庁 福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

今期間、九州地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 34 回、M5.0 以上は 6 回、M6.0 以上は 1 回発生した。このうち最大は、6 月 12 日に大分県西部で発生した M6.2 の地震であった。

2006 年 5 月～10 月の M4.0 以上の震央分布を第 1 図 (a) 及び第 1 図 (b) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 大分県西部の地震 (第 2 図)

6月12日に、大分県西部の深さ145kmでM6.2 (最大震度5弱) の地震が発生した。発震機構はフィリピン海プレートが沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部のやや深い場所で発生した地震である。

この地震の震央付近では、深さ90～130kmの範囲でM3～4程度の地震活動が時々みられるが、今回の地震はこの活動部分よりやや深い場所で発生しており、今回の地震が発生した深さではM6.0を超えるような地震はこれまでに観測されていなかった。

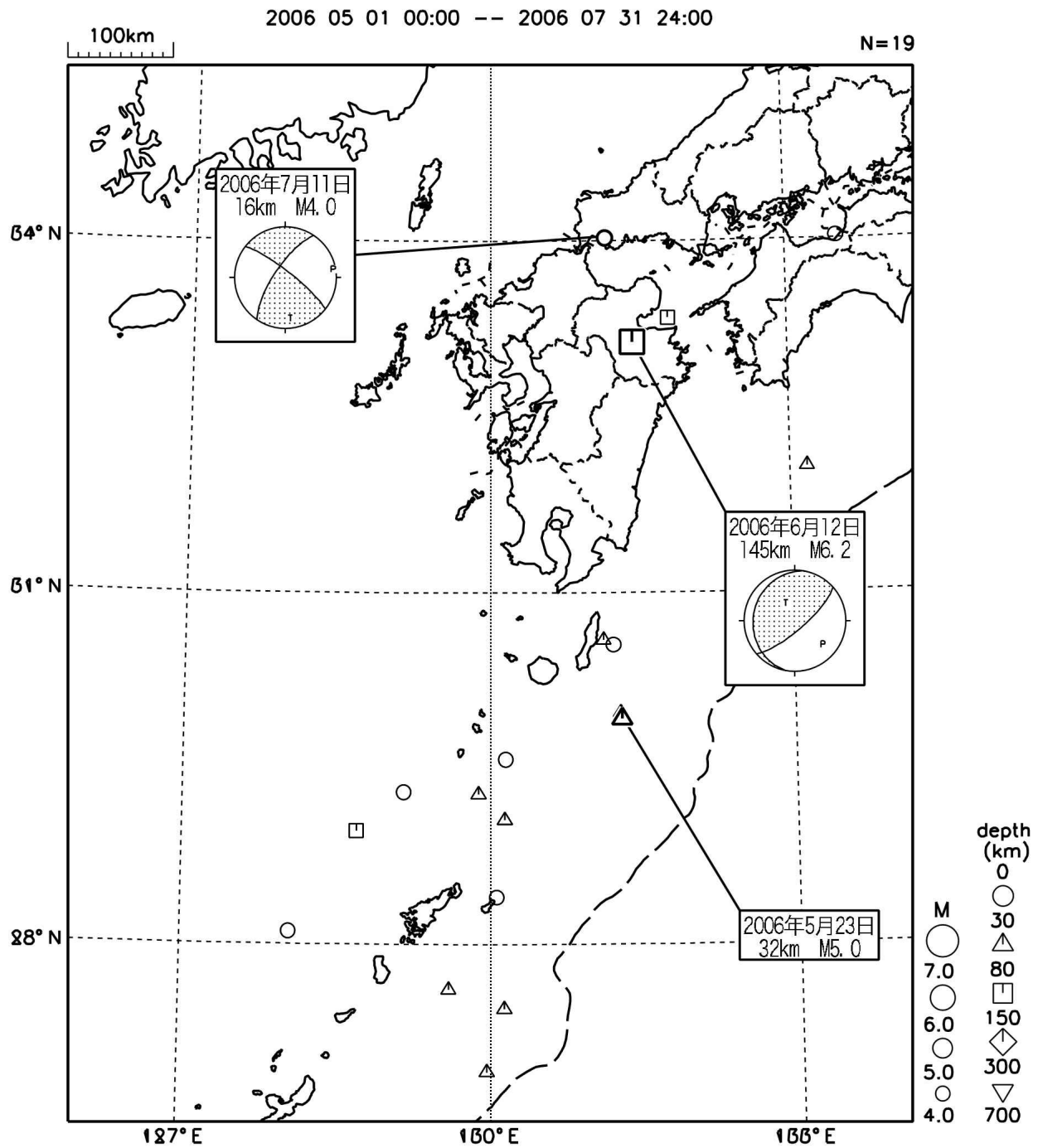
#### (2) 奄美大島近海の地震活動 (第 3 図)

奄美大島近海では、8月から10月にかけてM4.0を越える地震がやや目立って発生するなど、地震活動が時々活発化する場所が見られた。

このうち、8月13日にM5.3 (最大震度3) の地震が発生したが、余震活動は低調であった。また、この地震のすぐ東側で9月1日にM5.4 (最大震度3) の地震が発生した。この地震の余震活動は1週間程度活発な状況であったが、その後低調となった。この2つの地震の発震機構は、概ね北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

さらに、1995年10月18日のM6.9、翌19日のM6.7の地震 (ともに津波あり) の余震域で、2006年9月11日にM5.0 (最大震度3) の地震が発生した。

# 九州地方とその周辺の地震活動 (2006年5月～7月、 $M \geq 4.0$ )

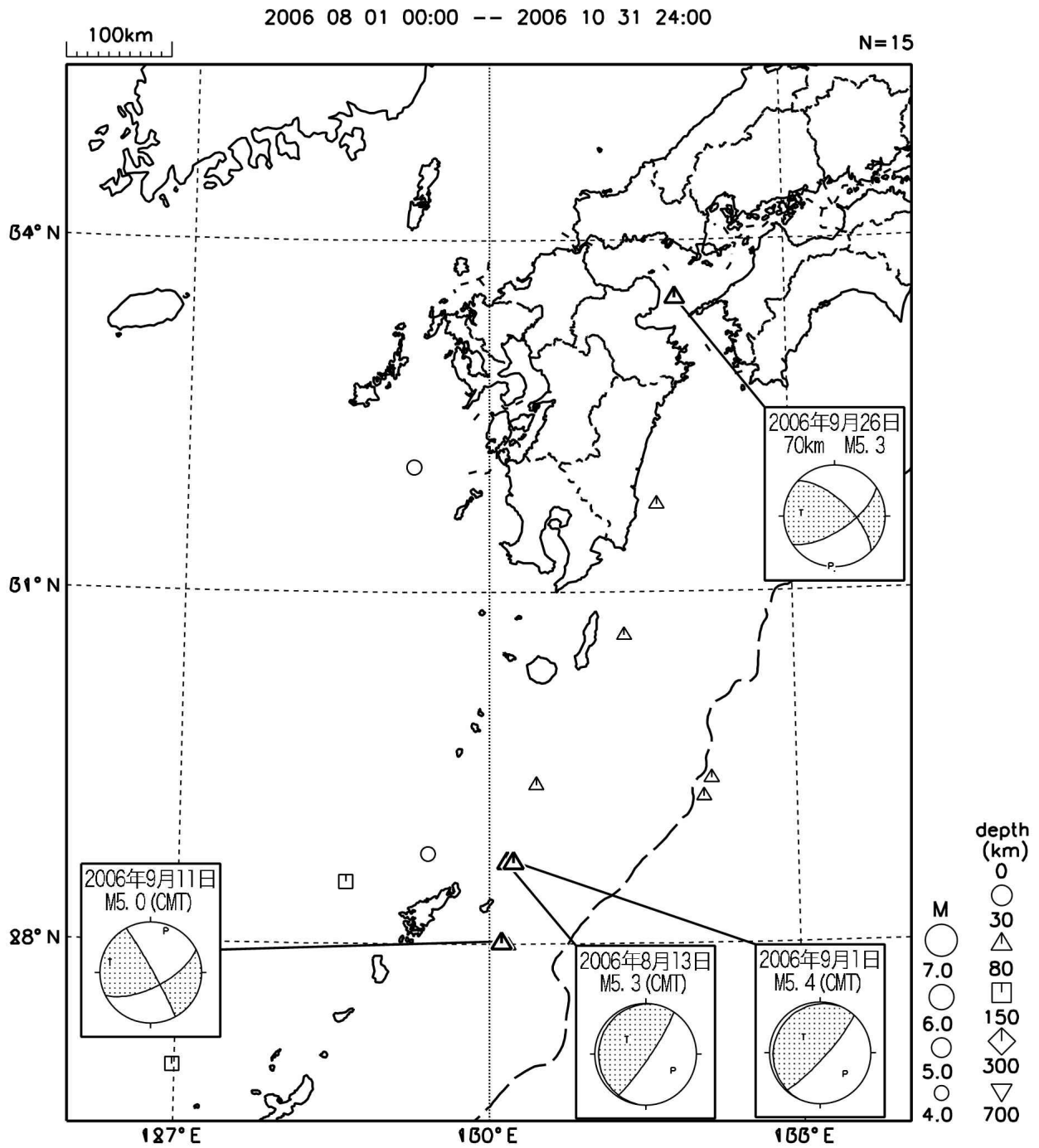


図中の吹き出しは、陸域 $M4.0$ 以上・海域 $M5.0$ 以上 気象庁作成  
(福岡管区気象台)

第1図 (a) 九州地方とその周辺の地震活動 (2006年5月～2006年7月,  $M \geq 4.0$ , 深さ  $\leq 700\text{km}$ )

Fig.1 (a) Seismic Activity in and around Kyushu district (May - July 2006,  $M \geq 4.0$ , depth  $\leq 700\text{km}$ ).

九州地方とその周辺の地震活動 (2006年8月～10月、 $M \geq 4.0$ )

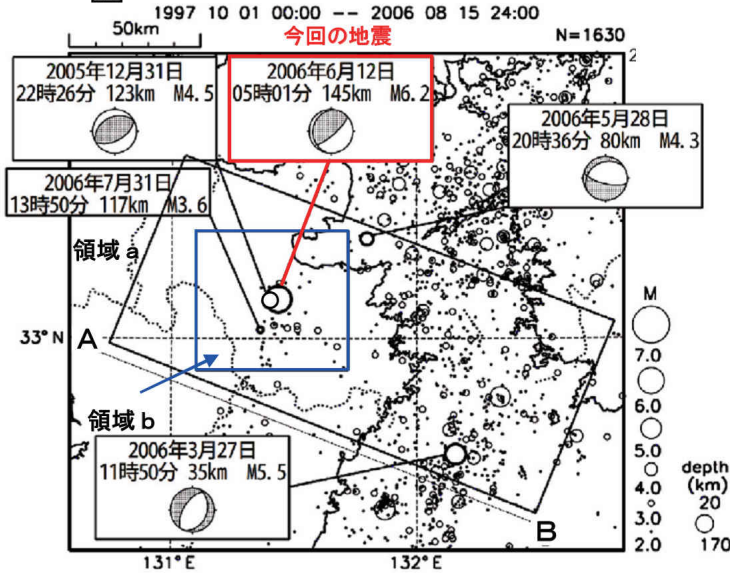


図中の吹き出しは、陸域M4.0以上・海域M5.0以上 気象庁作成  
(福岡管区気象台)

第1図 (b) つづき (2006年8月～2006年10月,  $M \geq 4.0$ , 深さ $\leq 700$ km)  
Fig.1 (b) continued (August - October 2006,  $M \geq 4.0$ , depth  $\leq 700$ km).

## 6月12日 大分県西部の地震

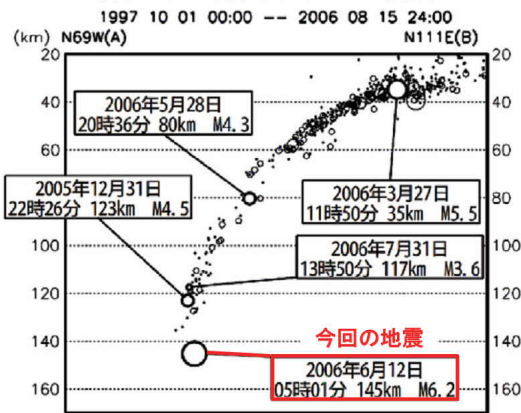
【A】 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ 、深さ20~170km）



6月12日05時01分に大分県西部の深さ145kmでM6.2（最大震度5弱）の地震が発生した。発震機構は沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部のやや深い場所で発生した地震である。余震活動は地震発生直後にM1クラスが4回観測されているのみである。今回の地震の震央付近では深さ90~130kmの範囲でM3~4程度の地震活動が時々見られるが、今回の地震はこの活動部分よりもやや深い場所で発生しており、この部分ではM6.0を超えるような地震はこれまで観測されていない。

この地震の南東側のフィリピン海プレートの浅い側では、2006年3月27日にM5.5の地震（最大震度5弱）が発生している。（【A】）

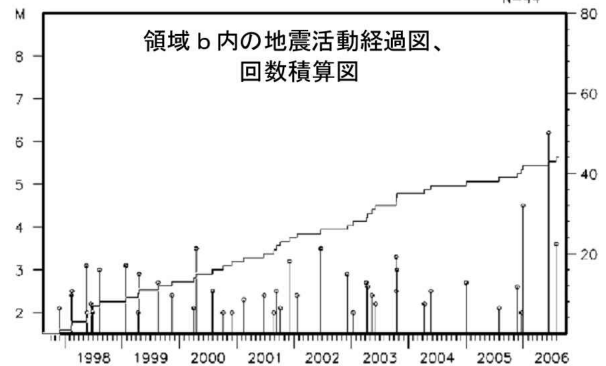
領域a内の断面図（A-B投影）



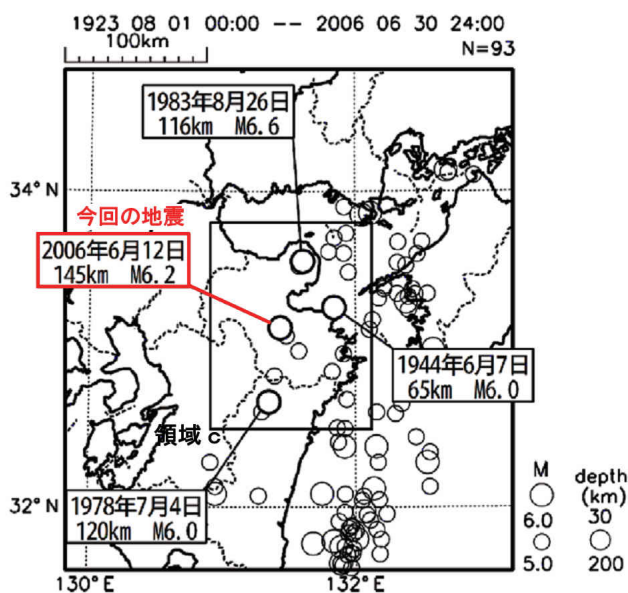
1997 10 01 00:00 -- 2006 08 15 24:00

N=44

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



【B】 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ 、深さ30~200km）

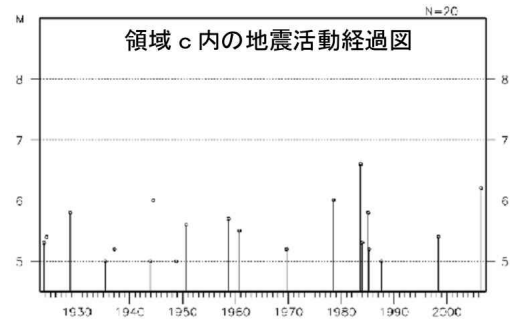


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震が発生した周辺のフィリピン海プレート内部ではM5.0を超える地震が数年に1回程度の割合で発生しているが、1983年8月26日のM6.6（最大震度4）以降、M6.0以上の地震は観測されていなかった。（【B】）

1923 08 01 00:00 -- 2006 06 30 24:00

N=20

領域c内の地震活動経過図

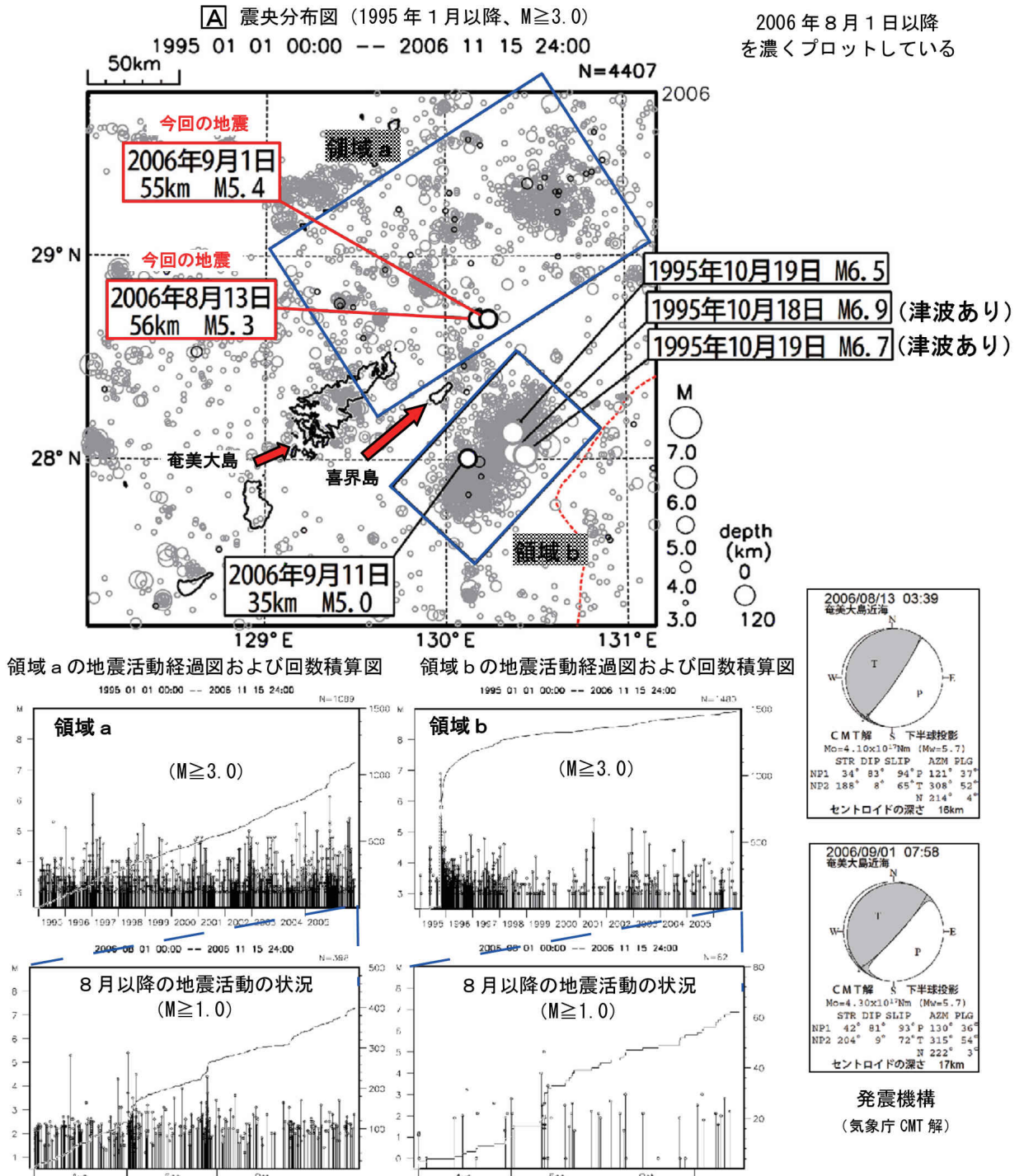


第2図 大分県中部の地震

Fig.2 The earthquake in the central part of Oita prefecture.



# 奄美大島近海の最近の地震活動



2006年8月13日に奄美大島近海（a領域）で $M5.3$ （最大震度3）の地震が発生した。この地震の余震活動は低調であった。この地震のすぐ東側で9月1日に $M5.4$ （最大震度3）の地震が発生した。余震活動は1週間程度活発な状態であったが、その後低調になってきている。この2つの地震の発震機構（CMT解）は概ね北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。今回の地震の周辺では8月から10月にかけて地震活動が時々活発化する場所が見られた。

また、1995年10月18日の $M6.9$ 、翌19日の $M6.7$ の地震（ともに津波あり）の余震域で、2006年9月11日に $M5.0$ （最大震度3）の地震が発生した（b領域）。今回の地震前後に少し地震活動が見られたが、数日で収まっている。（[A]）

第3図 奄美大島近海の地震活動

Fig.3 Seismic Activity in and around Amami-Oshima Island.